

症状の総体と三つの療法

■症状の総体（全体像）

ホメオパシーとアロパシー・アンチパシーとの大きな違いは、その人の全体をみるか、部分を見るかにあります。ホメオパシーがホリスティック（全人的）と言われるのはこのためで、通常医療のように眼科や耳鼻科や口腔外科や皮膚科などに分けることはしません。

ホメオパシーで「全体像」を指す言葉は、「症状の総体」です。「症状の総体」や「全体像」とは何のことでしょうか。なかなかとらえにくい概念ではないでしょうか。

オルガノンでは、しばしば「症状の総体」という言葉が出てきます。試みに「症状の総体」という言葉で検索にかけると、§ 7、8、15、16、17、18、22、24、25、27、70、81、92、100、101、102、103、104、135、152、153、181、210、217、241、258、274 など、たくさんの段落で使われていることが分かります（もっとあるかもしれません）。病気とは、症状の総体に他ならないことをハーネマンは発見しました。ちなみに英訳では総体は Totality と訳されています。

＜全体象の物語＞

ある国で、あらゆる理論と論争が絶え間なく繰り広げられていた。

あるときその国の王様が家来に盲人を集めるように命じた。

家来たちが必死に盲人を王宮に集めると、王様は家来に象を一頭連れてくるように命じ、これらの盲人に象を見せなさいと家来に命じた。

困った家来たちは盲人にその象を触らせた。

ある盲人は甕（かめ）の様なものだと言って主張した。かれは象の頭を触ったのだ。

ある盲人は箕（みの、ドジョウすくい）の様なものだと言って主張した。かれは象の耳を触ったのだ。

ある盲人は犁（すき、つるはしのようなもの）の様なものだと言って主張した。かれは象の牙を触ったのだ。

ある盲人は轅（ながえ、馬車と荷車を繋ぐ革紐）の様なものだと言って主張した。かれは象の鼻を触ったのだ。

お互いに主張しあう盲人をなだめる家来達に、王様は「人々は己の見解を持して譲らず、ただ一部だけを見るゆえに、論じ争うのだ」と告げた。

（オルガノン § 7 の脚註に、この象のお話と同じことが書かれています。）

全てのものには全体像がある

この世に存在する全てのものには全体像があります。病にも全体像がありますし、薬（レメディ）にも全体像があります。色々なものの全体像を考えてみましょう。

桜の反対のものは？

全体として反対のものは存在しません。例えば桜に似たものは存在しますが、桜の反対のものは存在しません。犬に似た動物はいますが、犬の反対の動物は存在しません。

病気も同様です。癌の反対、肺炎の反対、新型コロナウイルスの反対の状態は存在しません。

Mind と General と Partial

病の全体像というとき、大きくは **Mind** (精神・感情) と **General** (身体の全般症状) と **Partial** (身体の部分症状) に分けて考えると分かりやすくなります。しかし患者さんは単なる症状の寄せ集めではありません。いったん分けた後は、再統合しなければなりません。またその人の生まれて来てからの出来事や歴史、家族関係、人間関係、文化なども全体像を見る上で重要となってきます。

もちろん人は全体的な存在

これをいつも心に留めておくことが重要です。レメディも人と同じく全体的な存在です。マテリアメディカを読むときもこのことに留意しましょう。

■三つの療法

「三」は非常に基本的な概念です。通常どのようなものにも三つの関係性があります。上と下とその中間、右と左とその中間、好きと嫌いとどちらでも良い、熱いと冷たいとその中間、私とあなたと他人、そして何かに「似たもの」と「反対のもの」と「どちらでもないもの」。

病と治療薬の三つの関係性

病と似た現象を起こすもの＝ホメオパシー（Homeopathy）

反対の現象を起こすもの＝アンチパシー（Antipathy）

どちらでもないもの＝アロパシー（Allopathy）

病と関係性のある薬を使うべき

治療薬というからには病と深い関係性があるべきです。もし病に無関係な薬を使用するとしたらそれはあまり賢明ではありません。

三つの療法の中で病と関係性が存在するのは、「病と似た現象を起こすもの（ホメオパシー）」か「病と反対の現象を起こすもの（アンチパシー）」です。

病（症状の総体）と反対の関係性にある薬は存在しない

最初に学んだように、病とは症状の総体です。症状の総体に対して反対の現象を起こす薬があればいいのですが、残念ながら存在しません。反対の作用があるのは、常に「部分」に対してだけなのです。

病（症状の総体）と類似した関係性にある薬は存在する

症状の総体に似た現象を起こすものは存在します。ホメオパシーが有効である理由のひとつは、「病（症状の総体）とレメディに深い関係性が存在すること」なのです。

副作用

どんな薬であっても人間の全体に作用しますから、現代医療の薬にも全体像（症状の総体）が存在します。しかしアンチパシー的にそれを用いる場合、アンチパシー的關係にあるのは一つの症状だけで、薬のもつその他の症状群の多くは病気の症状群と無関係（アロパシー）になります。これが副作用と呼ばれるものの正体です。

ホメオパシー的問題解決とは

現代の医療はアンチパシーが主な考えです。特定の症状に対して反対の作用がある薬で押さえ込もうとするのです。悪役を見つけてそれを叩く、そういったアンチパシー的問題解決はよく見られますが、ホメオパシーはそのような問題解決方法を取りません。ホメオパシー的な問題解決とはどのようなもののでしょうか。